

研修資料>「学びに向かう力」をつける実践研究

【優言実幸】(その気・わかる気・できる気)から「考え・深め合う」授業へ

東川町立東川第一小学校

1 本校の研究の構想

本校では、令和4年度から「主体的に学び、考えを深め合う一っ子の育成」の研究主題のもと4カ年計画で研究を進めている。昨年度は国語科の授業を通し、授業実践を重ね、以下の成果と課題がみえた。

成果

- (1) 単元のゴールを明確にし、必要感をもてるものにしたことで、子どもたちは目的意識をもち、意欲を継続させて課題に取り組むことができた。
- (2) 課題提示の仕方や、見通しのもたせ方を学年に応じて工夫し、間接指導時にも集中して取り組み、自分の考えを表現することができた。
- (3) 今回の研究を通し、子どもたちが進んで意見を言う、相談しながら活動を進める姿が見られた。

課題

- (1) 他教科とのカリキュラムマネジメントを充実させたりすることにより、より主体的に取り組めるよう工夫が必要。
- (2) 子どもたちは自分の考えをもち、表現することはできるが、その意見に対して思ったことを伝え合うことに消極的な子も多く、教師主導の交流になることもあった。

これらの成果と課題から、対話的で深い学びにつなげるためには、考えを形成する段階から、互いの考えや取り組みを交流したり教え合ったりする中で、それぞれの考えを深めていくことを「深い学び」と捉えて交流の仕方を工夫するなど、さらに継続した取り組みが必要だと考えた。

そこで、今年度は国語科の授業に限らず、さまざまな教科において、「主体的に学び、考えを深め合う」授業の実現に向け、授業改善や日常的及び喫緊の教育課題について三つの領域から、実践的な研修を行っていく。

【A】 探究的な学びに向かう授業を目指した授業改善

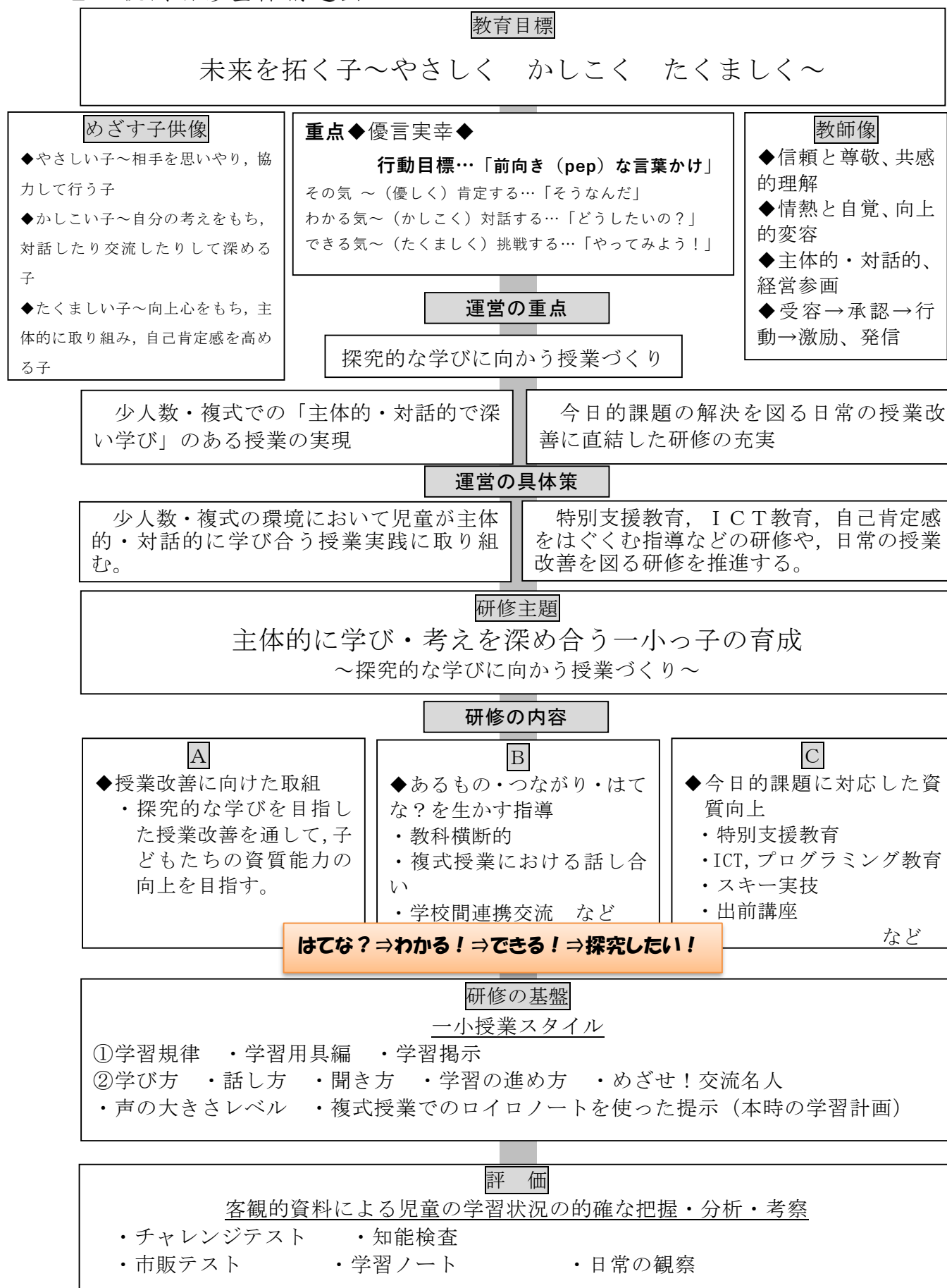
「はてな?⇒わかる!⇒できる⇒探究したい!」

【B】 あるもの・つながり・はてな?を生かす指導

(教科横断的な指導, 縦と横のつながり, 他校交流等)

【C】 今日的課題に対応した資質向上

2 校内研修全体構造図



3 研究推進計画

	1年次 (R4)	★2年次 (R5) ★	3年次 (R6)	4年次 (R7)
	研究計画の確立 上川中部地区・東川 へき複研究大会 (一 小)	授業実践	授業実践 全道へき複プレ研 (東川)	研究のまとめ 全道へき複本大会 (東川)
研究 内容 ①	単元構成の工夫 学習課題の工夫 学習指導課程の工 夫 ふり返りの工夫 ・読書活動との関連	単元構成の工夫 学習課題の工夫 学習指導課程の工 夫 ふり返りの工夫	単元構成の工夫 学習課題の工夫 学習指導課程の工 夫 ふり返りの工夫	単元構成の工夫 学習課題の工夫 学習指導課程の工 夫 ふり返りの工夫
研究 内容 ②	・新しい一小的授業 スタイルの作成 ・ICT機器の活用	一小的授業スタイ ル見直し ・ICT機器の活用	一小的授業スタイ ル定着 ・ICT機器の活用	一小的授業スタイ ル見直し・定着 ・ICT機器の活用

4 今年度の研修活動

回	月	日	曜	内 容
1	4	26	水	出前講座①「マンガ思考」 ○今年度の研究と研修について
2	5	24	水	出前講座②「マンガ思考」 ○具体的な研究の提案
3	6	14	水	○研究実践 ○今日的な課題への対応
4	7	19	水	○研究実践 ○今日的な課題への対応
5	8	30	水	○研究実践 ○今日的な課題への対応
6	9	27	水	○研究実践 ○今日的な課題への対応
	10	3	火	・上川教育研究大会中部地区研 (午後)
	11	2	木	・上川中部へき地複式研究大会 (東神楽志比内小)
7	11	15	水	○指導案検討 ○今日的な課題への対応
8	11	22	水	○研究実践 ○今日的な課題への対応
	11	29	水	・東川町へき地複式研究大会 (三小)
9	12	20	水	○特別支援研修 (特別支援係が計画・運営を行う)
10	1	未定		○実技研修 (スキー指導) ※可能であれば
11	2	14	水	○今年度の研修の振り返り・次年度に向けて

※今日的な課題に対応するため、内容が変更したり、必要な研修が生じた場合は時間を設定して行ったりする。

- ★11月29日にへき複研究大会が入ったので、研修日を一週繰り上げています。
- ★出前講座を受けて、どのように授業改善できるか協議し、授業を公開する…など柔軟的に実践をしていきたい。
- ★目安は6・7月に一本、10月に道徳で授業、11月に一本はどうか？
- ★指導案形式などは特に設けず、映像や写真も活用しながら研究に関する部分を協議できるような研修にしたい。

5 各研修領域の内容

A 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

I 目指す子供像

- 目的意識をもって自発的に学習に取り組む子
- 自他の思いや考えを共有・共感し、自分の考えを広げたり高めたりできる子

	主体的に学ぶ	考えを深め合う
低学年	めあてをもって学習に取り組み、自分の考えを表現することができる子	自分と友だちの考えを比べながら聞き、伝えたいことやよさに気付くことができる子
中学年	課題に向かい、学び方のガイドに沿って学習を進め、自分の考えを表現することができる子	自分と友だちの考えを比べながら聞き、それぞれの考えのよさやつながりを考えることができる子
高学年	課題に向かい、友達と協力しながら学習を進め、事象に対する考えを、自分の言葉を使って表現することができる子	自分と友達の考えを比べながら聞き、自分の考えをよりよいものにするすることができる子

【参考】独立行政法人教職員支援機構「研修プランシリーズ」より

～主体的・対話的で深い学び…実現したい子どもの姿～

【主体的な学び】

- ・興味や関心を高める
- ・見通しをもつ
- ・自分と結びつける
- ・粘り強く取り組む
- ・ふり返って次へつなげる

【対話的な学び】

- ・多様な情報を収集する
- ・思考を表現に置き換える
- ・多様な手段で説明する
- ・先哲の考えを手がかりとする
- ・共に考えを作り上げる
- ・協働して課題解決する

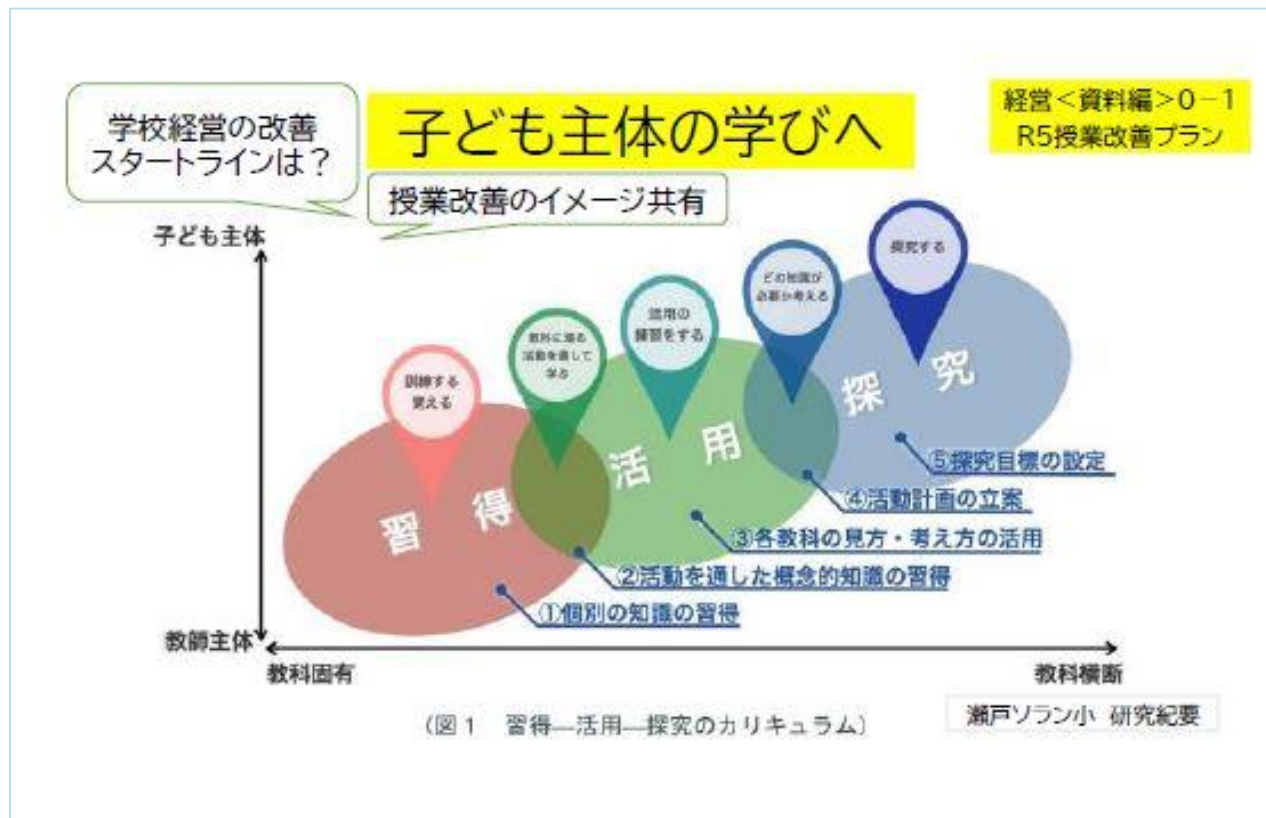
【深い学び】

- ・思考して問い続ける
- ・知識・技能を習得する
- ・自分の思いや考えと結びつける
- ・知識や技能を概念化する
- ・自分の考えを形成する
- ・新たなものを作り上げる

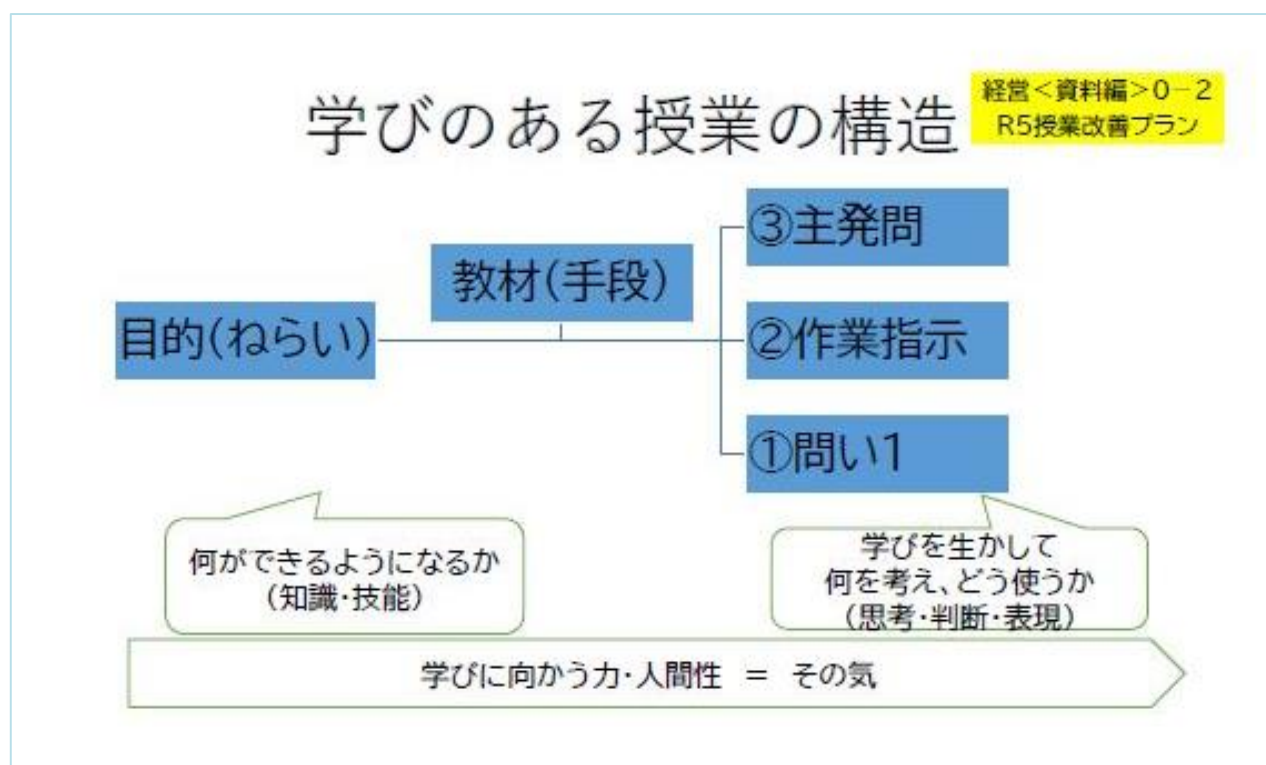
2 授業改善プラン

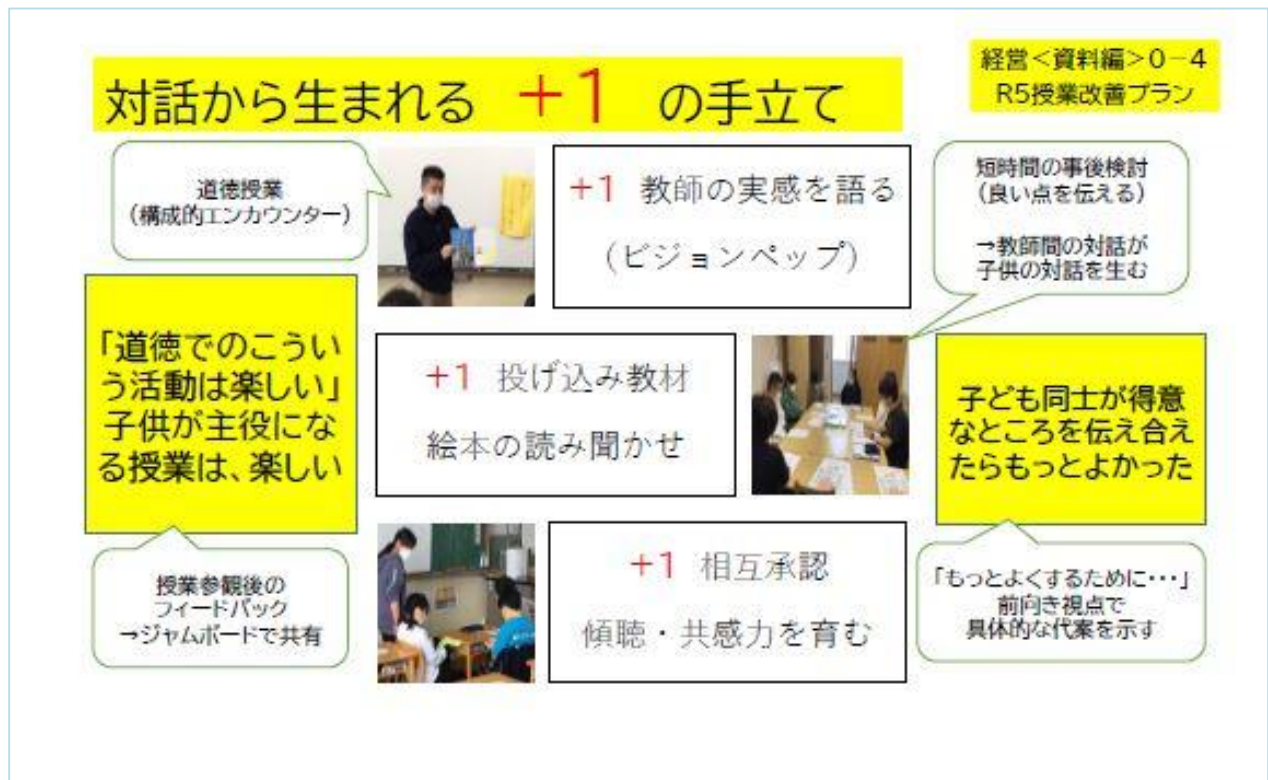
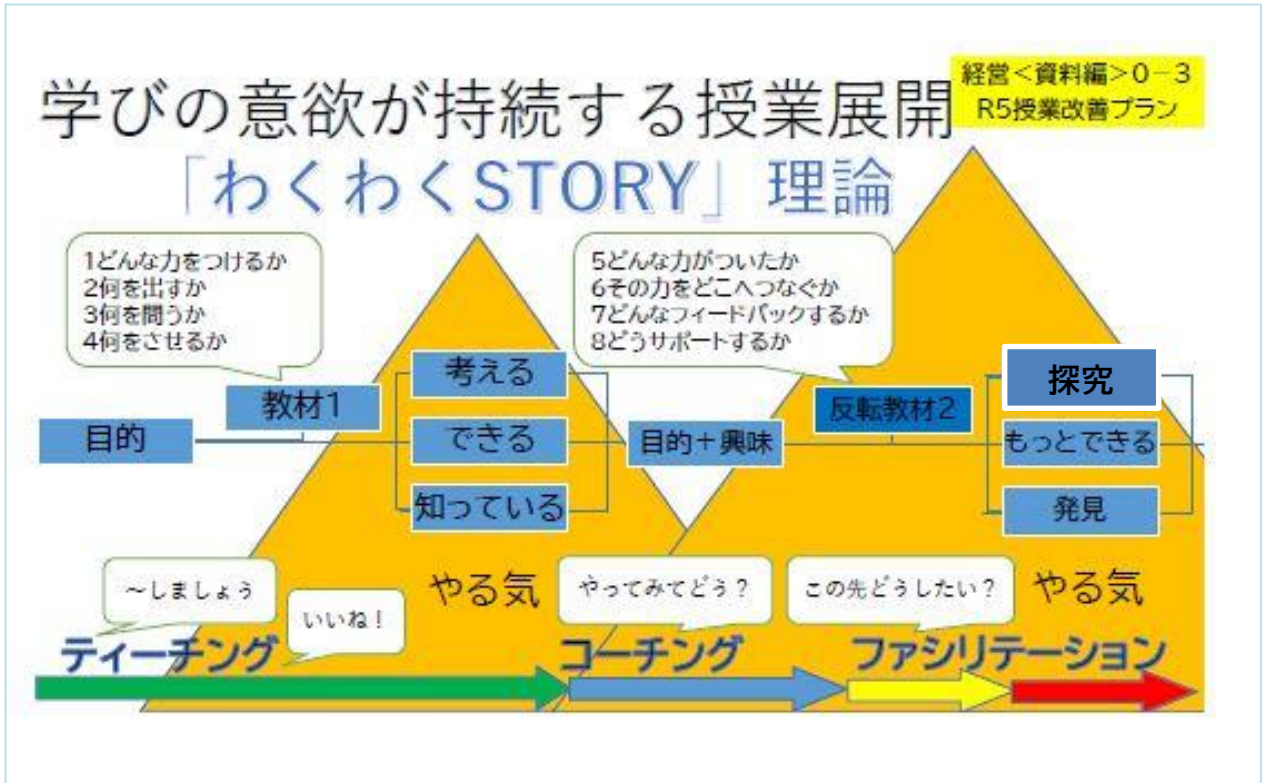
今年度の学校経営改善の内容と目指す子供像から、以下の授業改善プランから深い学びにつながる探究的な学習についての研修を行っていく。

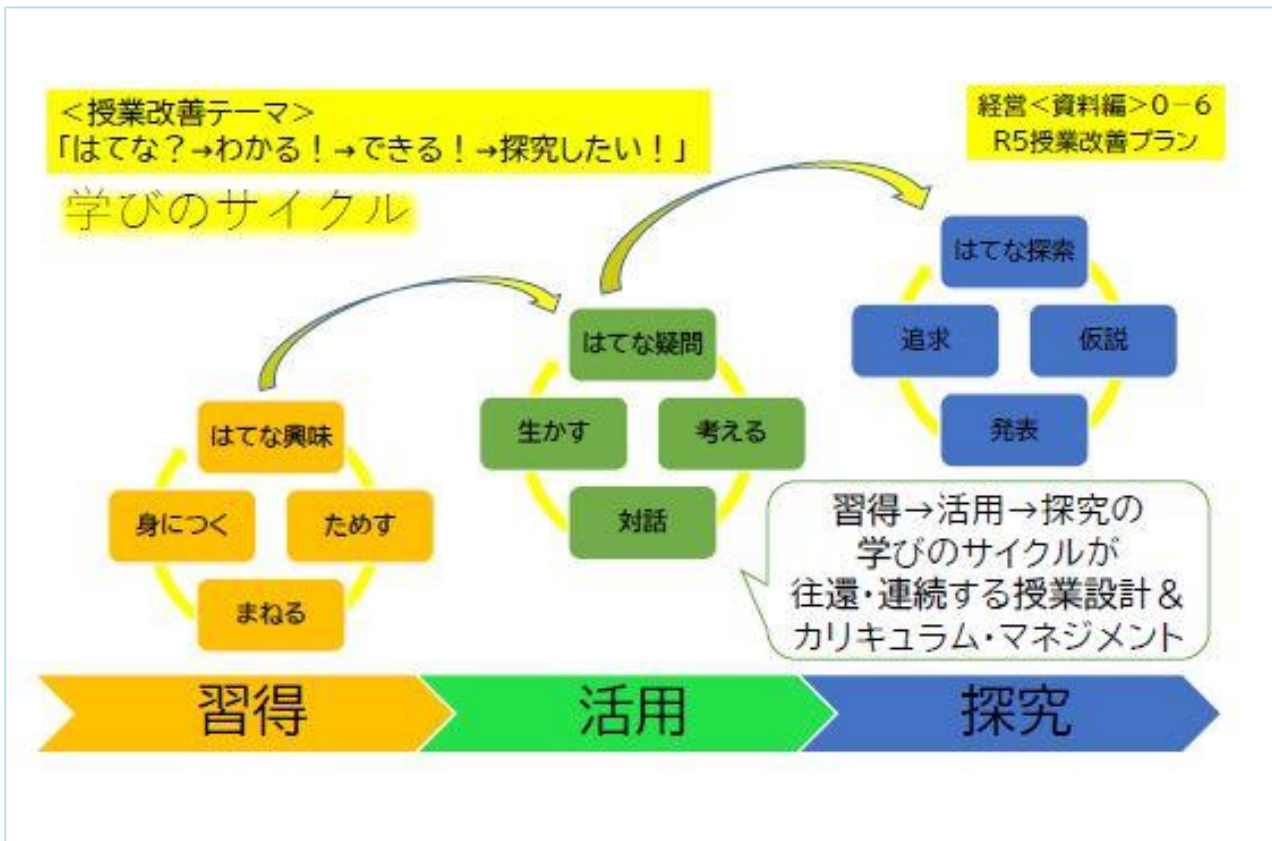
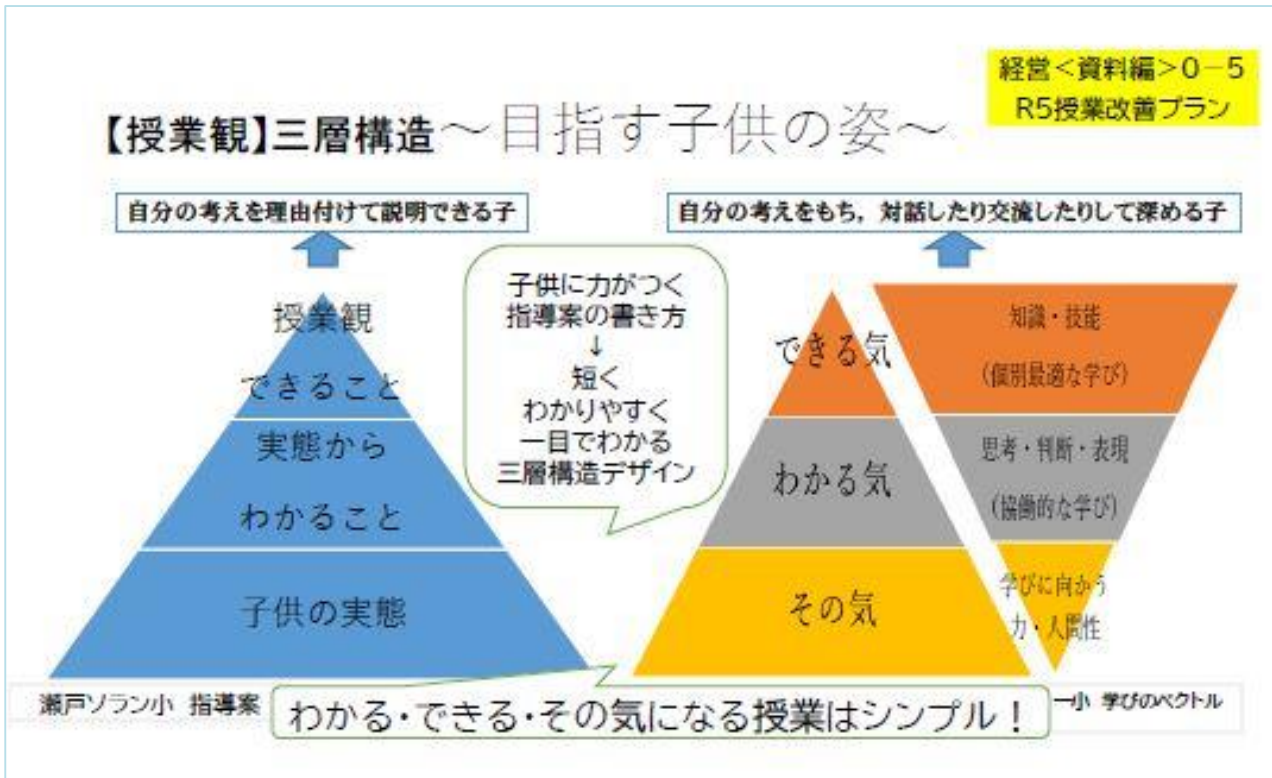
授業改善プラン①



授業改善プラン②







B あるもの・つながり・はてな？を生かす指導

- ①あるもの（人的物的資源）
- ②つながり（たてわり，複式，教科横断学習，学校間交流）
- ③はてな？（子供同士で多様な考えにふれ，学びを深める）

『一小の教育 経営5 経営の具体化指標』より

コロナ禍で，地域の方との交流や他校との交流ができずに学習をしていた。深い学びにつながる指導には，必要感をもたせる導入，ゴールの提示が必要である。地域の方，他校との交流を通してより必要感をもって学習に取り組めるよう授業改善を行いたい。また，複式授業においても，対話的な活動において感染予防の観点から制限があり，対話というよりも発表という形になる授業が多かった。情勢に合わせ，顔と顔を合わせて対話をし，より考えを広げられるような指導をしていく。

【学校間連携を通じた児童の育成】

中へき複事業の小規模校同士の集合学習，養護学校との交流学习を通して，児童の交流や教師の授業力向上を図っている。

◇集合学習◇ 周辺校(第二小，第三小) 低，中，高にわかれて	◆交流学习◆ 東川養護学校
--------------------------------------	------------------

昨年度の研究のまとめから，いつも同じメンバーでの限られた交流でなかなか考えが広がっていかないという点が課題にあげられていた。今年度は，集合学習のみではなく，リモート交流も取り入れて，より多くの考えや体験を通し，多様な物の見方と考え方にふれさせ，自己の考えを深めさせたい。

C 今日の課題に対応した資質向上

教育現場における緒課題は，複雑化・多様化している。また，学習内容の変化，教材・教具の進歩も著しい。校内研修で教員のニーズに基づいた研修を取り入れ，教員の資質向上を図る

- ①特別支援研修
- ②実技研修
- ③講師を招いた演習，講演

など

1.2 経営方針の具体化指標

(1) プランA→自分大好きプロジェクト(自己肯定感の育成)

<特別活動テーマ>

心理的安全性「楽しい! やりたい! →聞いてくれる! 嬉しい! →聞きたい! 話したい!

<検証改善テーマ> (研究×→研修△→実践○→検証改善◎)

学びに向かう居場所づくり～朝活(一・小ホーム)を入口とした「自分大好きプロ」の育成

【特別活動改善テーマ】～カリマネ3つの側面～

<視点1> あるものを生かす(人的・物的資源活用)

<視点2> つながりを生かす(教科横断カリマネ～検証改善)

<視点3> 「はてな?」を生かす(主体・対話・探究～日課、生活習慣の改善)

<教育課程編成の手順>

(1) 理念共有 **教育目標:未来を拓く子 めざす学校像:夢を叶える学校 重点:優言実学**

合言葉:わかる気・できる気・やる気

(2) 朝活の位置づけ→子供が考えて活動する時間

*教師の関わり→「すさま」を意識する、ガイドをしたら子供の主体性を信じて待つ

*教育計画との関連→週時程・日課表を基本に、短期スパンで改善する

*教育課程編成(カリキュラム・マネジメント)→教科横断的な関連性を意識して関わる

※手だて→**新設分室「ホーム部」…たてわりホーム(3班で運用)+各学年・特別支援学級**

(3) 特別活動の授業改善

<視点1> あるものを生かす(人的・物的資源活用)

⇒読み聞かせ・読書活動から、言葉遊び・言語活動の習慣化

学級・たてわり(ホーム)における「話す・聞くスキル」の習慣化

※ゴール…**相手意識の育成+言語活用力の育成による思考習慣化**

<視点2> つながりを生かす(教科横断カリマネ～検証改善)

⇒1) ペットトーク授業(年3回)

⇒2) たてわり(ホーム)交流

※ゴール…**自他の良いところを見つけ、自己承認・相互承認する行動アップデート**

(4) 道徳授業の改善

<視点3> 「はてな?」を生かす(主体・対話・探究～日課、生活習慣の改善)

⇒「考え・議論する力」をつける道徳授業

※ゴール…**多様な考えに触れ、とらえ方を変える思考のアップデート**

(5) 学級・学年経営の改善

⇒自分アンケート、個別面談(コーチング、カウンセリング)、構成的エンカウンター、

※ゴール…**自己肯定感・心理的安全性の担保**

【授業を支える「学びに向かう力・人間性」へのアプローチ = 共感的理解+ペットトークサイクル】

☆教師にもとめられる資質・能力

共感的理解とは?→価値観や育った環境が異なる相手について、相手の考え方や状況を、相手の心の基準で、理解しようとする態度

カウンセリングマインドとは?→「受容」「傾聴」「共感」の3つのステップを意識しながらコミュニケーションを円滑にするための技法・心構え

ペットトークとは?→本番前の[激励演説]。自分へのセルフペットトーク、相手を励ますゴールペットトーク4step(受容・承認・行動・激励)で心を最速化する自己肯定感を育むツール

ペットトークサイクルとは?→スポーツにおける検証改善サイクル。試合後の振り返り(ポスト・コンピティショントーク)→日常の声かけ(モチベーショントーク)→ペット・トーク(本番前の背中の一押し)